

## 平成24年度 微生物学教科担当教員会議 議事録（日本薬学会133年会、横浜）

日時：平成25年3月30日12時20分～13時

場所：パシフィコ横浜 M 会場（413号）

出席者：全国大学薬学部において微生物学教育に携る教員66名

### 配布資料

- 1) 平成24年度 微生物学教科担当教員会議議題
- 2) 薬学微生物学教員会議出席予定者名簿（資料1）
- 3) 日本薬学会生物系薬学部会の動向（資料2）
- 4) 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂案（資料3）
- 5) 日本薬学会第134年会（熊本大学）ポスター
- 6) 第35回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム ポスター

会場で行われていた一般口頭発表（化学系）が延長のため、12時15分入場、12時20分開会となった。

関水と久（平成24年度 微生物学教科担当教員会議事務局）の挨拶があり、垣内力（同事務局）の司会で議事進行が行われた。

議題に先立ち、退官に伴い名簿削除の依頼のあった東京理科大学石井賢二先生について説明が行われ、名簿削除の旨が承認された。また、名簿の変更等について、事務局まで連絡をお願いする旨が述べられた。

### 議題

1. 平成25年度 微生物学教科担当教員会議 事務局担当について  
熊本大学 大槻純男先生から、来年3月の日本薬学会第134年会時に平成25年度微生物学教科担当教員会議を行う旨、大槻先生が事務局を担当する旨が述べられた。
2. 生物系薬学部会の動向について  
星薬科大学 辻勉先生から、説明が行われた。生物系薬学部会の部会長が名古屋市立大学今川正良先生から京都大学中山和久先生に交代となる旨が述べられた。ファーマバイオフォーラムについて、2013年度は関水と久（東大）が世話人を行う旨、2014年度は大熊芳明先生（富山大）が世話人を行う旨が述べられた。Pharmaco-Hematology シンポジウムについて、本年、6月1日に長井記念ホールにて行われる旨が述べられた。生物系薬学部会のホームページ「学生コロキウム」について、更新が少ないため、ジャーナルクラブと研究紹介の両方について、多くの投稿をお願いする旨が述べられた。知財の権限の問題から、投稿に際しては指導教員の承認が必要であることが述べられた。私学において

は、6年制化に伴い、まとまった研究ができていないことが問題として上げられた。6年制学生の学会参加を促進して欲しい旨が述べられた。薬剤師国家試験問題について、物理・化学・生物としての出題であるため、生物系薬学部会の意見が反映されにくい構造になっていることが問題として上げられた。アンケート調査への協力等により、今後の改善を期待する旨が述べられた。

3. 微生物シンポジウムについて

立命館大学 土屋友房先生から、微生物シンポジウムへの参加、活性化のお願いがなされた。2012年度は参加人数が71名であったことが摂南大学 渡部一仁先生から報告された。期日が実務実習と重なっていたことが学生参加数が少なかった原因ではないかと述べられた。2013年度の予定が静岡県立大学 今井康之先生からなされた。標題を「ヒトの健康と微生物」とし、共生細菌を主軸としたシンポジウムを行う旨が述べられた。2014年度は明治薬科大学 池田玲子先生が世話人となる旨が述べられた。2015年度の世話人については、土屋先生が関水と久と協議の上、推薦を行う旨が述べられた。

4. コアカリキュラム改訂について

同志社女子大学 川崎清史先生から説明が行われた。薬学基礎教育の生物の部門において、築地、中森、前田、福原、川崎の各先生が免疫・微生物を受け持っていることが述べられた。内容を3割削減することが目標となっていること、SBOが36個から28個に減少し、項目数が「微生物の基本」「病原体としての微生物」の2項目になったことが説明された。

5. 6年制の薬学生に対する感染症専門教育について

東京薬科大学 野口雅久先生と就実大学 塩田澄子先生から説明が行われた。野口先生から、感染制御認定薬剤師となるためのアドバンス教育を6年生の5月から2ヶ月半の間、東京医大 八王子センターとの連携で行っていることが紹介された。医師が中心となって学生の教育にあたっていること、学生からは実際の医療が体験出来るため大変好評であること、特に看護師からの教育が上手くいっていることが述べられた。また、本教育を通じて、病院の医師、看護師と共同で研究論文をまとめる機会ができるため、双方にとって良い機会であることが述べられた。塩田先生から、協力病院において薬剤師による学生の教育を行っている旨、特に抗菌剤の適正使用についての教育を行っている旨が述べられた。

以上